

和歌山病院での実習を終えて



岩崎 由将

和歌山病院の実習で、大変楽しく勉強させていただきました。結核のことを教わりましたが、結核についてなんとなくの知識はあったものの、細かい部分の知識を詰められていなかったもので、理解を深めることができました。医療従事者として、結核のことは常に頭に入れておかなければならない疾患であり、結核が疑われる人に対してどのような対応をとれば良いのかを、理論的に説明していただき、理解することができました。

今回の実習で感じたこととして、これから医療の現場に立つ時、今までの知識を使って常に考えていくことが大切だと感じました。例えば、X線やCT、MRIなどの画像所見に対しては、今まではやみくもにそれぞれの症例をみて、こういうものかと納得していただけて、苦手意識をもったままにしていました。しかし、どこが正常でどこがどういう理由で異常かというのを考えながらみていかないと、画像所見を必要十分にみられるようにはならないと、改めて感じました。まずは正常な状態とはどういうものであるのかを頭に叩き込んでいこうと思いました。

また、人工呼吸器についても、実際に体験しながら教えていただきましたが、実際の器具に関する知識を今まであまり持っていなかったもので、今回知ることができて良かったです。

和歌山病院での実習は、南方院長に夕食をごちそうになったこと等々もあり、非常に楽しい実習にさせていただきました。そのおかげで、呼吸器への興味も深まりました。今回教わった知識は、長く覚えていられるように思えます。最後になりますが、今回関わってくださったすべての方々に、感謝申し上げます。ありがとうございました。